

この通信では、小野特別支援学校の学校安全に関する本校の取組について紹介していきます。

オープンスクールで親子安全学習の実施

今年度の新たな取り組みとして、7月1日安全の日にオープンスクールで、親子安全学習を実施しました。小学部は各学級で、児童の実態に合わせて、防災ダックや映像を用いて、災害時の行動を学んだり、新聞スリッパ、新聞紙クッション等、防災グッズづくりを行ったりしました。また、低学年は、防災列車で、AEDなど、校内の安全ポイントをスタンプラリーで回りました。



中学部は学部全体で、生徒の実態に合わせて、パーソナルスペースやプライベートゾーンなどの性教育について、そして、実際の赤ちゃんや赤ちゃんと同じ重さの人形を抱っこして、自分の体や命を大切にされてきたことを知り、これからも自分たちでお互いを大切にしていこうといった学習を行いました。

子ども達は、「地震の時は?」「頭をおさえるポーズ」をとったり、赤ちゃんを抱く時は、そーっと優しく触ったりと「危険」について知り、安全に行動することについて保護者と一緒に確認できました。

保護者心肺蘇生法研修の実施

保護者の心肺蘇生研修を小野市消防本部の方の協力を得て、学習参観日に一齐に実施しました。今年度は、毎年、職員が研修している「ASUKAモデル」のビデオを保護者にも視聴してもらってから心蘇生研修に臨んでもらい、より実感をもって研修に取り組んでもらうことができました。



緊急時対応訓練の実施

本校では5年前から毎年、緊急時対応訓練を行っています。

児童生徒の実態によるもの、近隣の特別支援学校や全国で大きな話題となった、実際に起きた事案を取り上げ、毎年、想定を変え緊急時に対応できるように訓練を行ってきました。職員の共通認識、動きの確認に加えて、近隣や全国で話題になっている事案に取り組むことで、保護者への安心につなげられるように心がけています。

今年度は、10月11日(水)放課後に、緊急時対応訓練を実施しました。

スクールバスで下校中、生徒の様態が急変し、痰による窒息で呼吸不全になるという想定で実施しました。対応としては、呼吸不全から救急処置と搬送までを小野市消防本部や介助員、スクールバス運転手と連携し訓練を行いました。



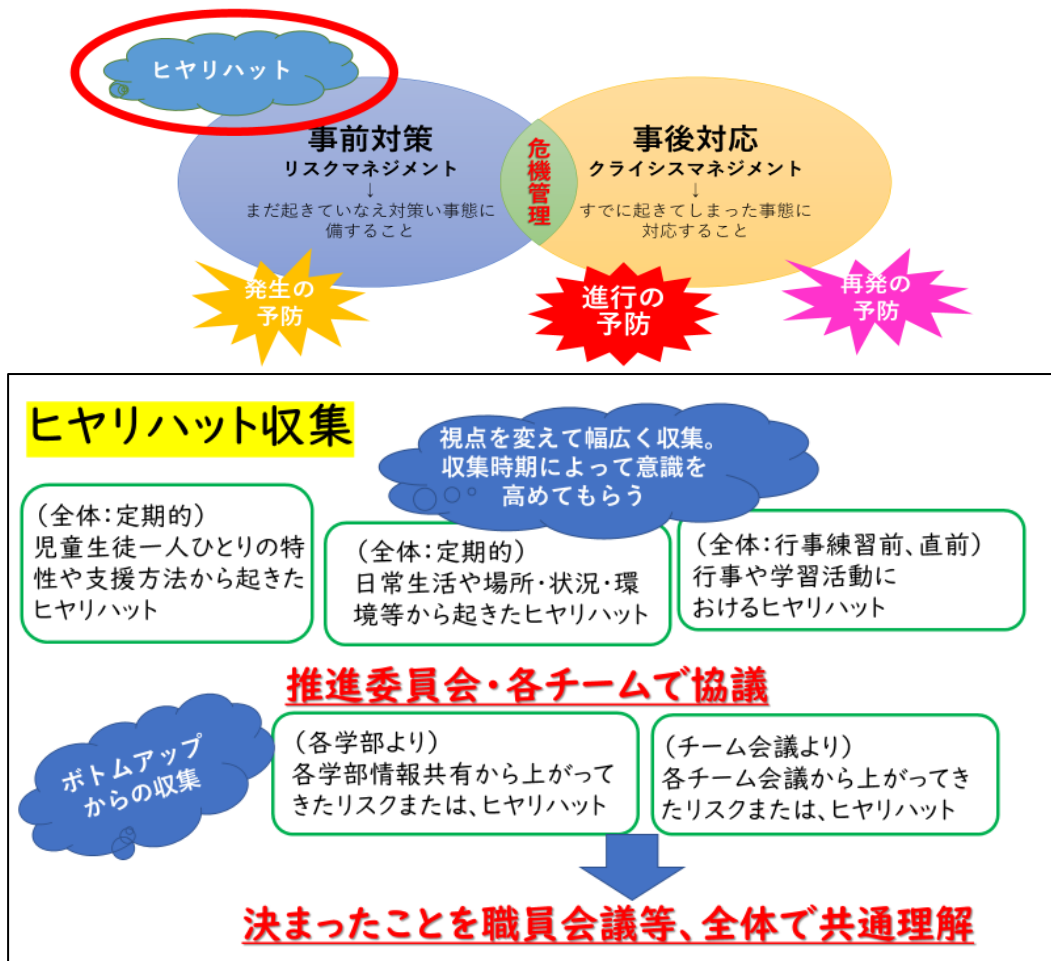
訓練後に、職員室とスクールバス、救急対応現場を録画したビデオを見ながら、連絡・誘導・保護者対応について訓練参加者みんなで検証を行いました。

成果として、緊急時の対応方法や記録、保護者や関係機関への対応など再確認することができました。

課題としては、指示・伝達や救急対応などの役割が誰でもできる体制づくりの構築と、今後も様々な場面を柔軟に対応していくことができるよう、想定を変えながら実施していくことを全体で共有しました。

ヒヤリハットの収集

ハインリッヒの法則から、重大事故の未然防止のために「ヒヤリハットの集約」がいかに重要か共通理解を図り、定期的なヒヤリハット収集を実施しています。



ヒヤリハットの収集は、基本的に、各学期定期的に収集し対応策を協議します。
内容としては、○児童生徒の一人ひとりの支援におけるヒヤリハット。

○各行事や学習活動に関わるヒヤリハット。

など、幅広い視点で収集すると共に、収集する時期によって教職員に意識を高めてもらう目的もあります。それぞれ、収集したものを推進委員会やチーム会議で協議し対応策を考えます。それを、職員会議等、学校全体で共通理解を行うことにより、リスクマネジメントの意識向上を図りました。

ヒヤリハットの具体例: 休み時間の過ごし方

- 運動場で、自由に自転車遊びをしていたが、衝突の危険がある。⇒自転車の進行通行に揃え事故防止に繋がった。
- 体育館での鬼ごっこが校舎内まで走ってきて、衝突の危険がある。⇒校舎内では、行わないよう、教職員、児童生徒に周知し事故防止に繋がった。

今後の予定

親子防災訓練の実施(1月17日 水曜日 実施)

地震についての親子学習会や、親子での避難訓練、避難所設営・体験等を予定しています。

第2回 不審者対応訓練の実施(1月下旬～2月上旬 実施予定)

9月4日(月)に、大阪教育大学附属池田小学校の公開不審者対応訓練に本校職員2名が参加しました。

事前の打ち合わせや緊迫した訓練の様子、振り返りの方法など学んだことを活かして3学期に実施予定です。

令和5年度 学校安全推進実践報告会・講演会(2月28日 水曜日 実施)

○小野特別支援学校の学校安全の実践の報告。(SPSの学校安全の視点から)

○講演会「安心安全な学校づくり 一校内ヒヤリハット登録システムを中心にー」

講師 大阪教育大学 教授 学長補佐 学校安全推進センター長 藤田 大輔 先生